

令和2年度 第3回公立鳥取環境大学教育研究審議会 議事要旨

- 日 時 令和3年2月3日(水) 10:00～11:30
- 場 所 多目的ホール(Webexによるオンライン会議)
- 出席者 江崎信芳委員、宇佐美誠委員、片木威委員、田中仁成委員、田村文男委員、山本仁志委員、今井正和委員、遠藤由美子委員、小林朋道委員、矢野順治委員、[10名/11名]
- 欠席者 尾室高志委員

【議事】

1 前回議事要旨の確認

原案のとおり承認された。

2 協議事項

(1) 令和3年度当初予算編成(案)について

事務局から、令和3年度当初予算編成(案)について説明があり、原案について承認された。

〈主な意見等〉

- ・TOEICからGTECへ英語テストの手法を変えることで、学生への教育的視点で懸念はないか。
→TOEICは社会人向けの要素が強く、価格比較等総合的に判断した。また、GTECはPCでのオンラインテストを受講することができることも、このコロナ禍において非常にメリットとなる。

3 審議事項

(1) 令和2年度予算の補正について

事務局から、令和2年度予算の補正について説明があり、原案について承認された。

〈主な意見等〉

- ・国際交流事業として、コロナ禍で来年度に向けてどのようなことを検討しているか。
→海外留学のオンラインプログラムを実施予定。春休み期間にはカナダのトリニティ・ウエスタン大学とオンライン海外留学を予定しており、3名の学生が参加をする予定。
- ・人件費の減額補正として、教員採用未補充分とあるが、学生に対して不利益が生じることはないか。
→教育的観点で見ると特に影響はない。次年度より開始する副専攻の部分で準備のために早めに採用する予定であったが、思うような人材が集まらなかったことが原因。
- ・授業料減免制度の中で、執行見込みと執行額の差額が生じたということは、申請者が予測より少なかったということか。
→多くの学生が申請すると思っていたが、手続きの手間の多さが原因なのか思った程の申請者がいなかった。今後、手続きの簡略化等も含めて検討していく。

4 報告事項

(1) 鳥取県内出身学生(令和3年度入学)に対する新たな支援について

事務局から、鳥取県内出身学生(令和3年度入学)に対する新たな支援について報告があった。

(2) 20周年事業の実施について

事務局から、20周年事業の実施について報告があった。

〈主な意見等〉

- ・ 記念式典の実施方法や開催時期はいつ頃を予定しているのか。
→ できれば対面で実施したいが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況次第では、オンラインでの開催も検討したい。時期としては秋以降で考えている。

(3) 近況報告

事務局から、就職、入試実施状況、国際交流事業、教務関係について近況報告があった。

〈主な意見等〉

- ・ 一年を通して授業やその他の事業をオンラインで実施したことでの、教育効果はどうであったか。評価を教えてください。
→ 学生の声としては、オンライン授業がいい学生と対面授業がいい学生はおよそ半々。双方にメリットとデメリットがあることが確認できた。オンライン授業になってから、課題に熱心に取り組む学生が増えたとし、アクティブラーニングの場面で、対面に比べ質問が増えたという教員の声も多い。ただし、これは学生の成績も含めて総合的に判断しないといけないため、後期の成績判定後、分析し、今後対面とオンライン授業を上手に組み合わせ、授業展開していきたい。

5 閉会